

私の仕えるお方は
良家のご令嬢だ

ただいまー

おかえりなさいませ

ううー

死ぬほどお腹すいた…

つい見惚れてしまうほど
美しい雰囲気で
才色兼備なお方だけど

お嬢様

ご夕食の準備が
できて…

いや

お風呂が先っ

えっ
気まぐれでいまいち
考えてらっしゃることが
分かりにくい…

さらに
困ったことに…

…あの
お嬢様…

ほら今の私は
すごく無防備…

襲うなら絶好の
チャンスだよー？

すりすり…

毎日こうして私を
誘惑してくるのだ

正直なところ
嬉しくはあるけれど

あなたの好きにして
いいんだよ？

おやめくださいお嬢様

…ダメですよ
本当に

メイドとして理性を
保つのに必死だ…

じゃあ襲いたくなるよおうに
してあげる

お…お嬢様…

だけどれだけ
耐えようとしても

ほら…

目の前でこんな
ことをされては…

トキッ

あ
ん…

お嬢様のお体…
温かくて柔らかい…

んっ…

あっ…
手あったかくて
気持ちいい…

もっと

ねえ…
はやく
きて…

ん…

お嬢様の全てを
感じていたくなってる…

もう…お嬢様が
誘ったんですよ？

だめだ…
今日も誘惑に負けて
しまった…

でもこんなの
耐えられるわけない

ぜんぶお嬢様が
悪いんですからね…

いいよ...
めちやくちやにしてくれても

いけないことだって
わかっているけど

遠慮はしないですからね？

ゆる...

私だけに見せてくれる
このお姿はあまりに
魅力的で...

んっ
そこ...好き...

ん...
もっと

びくっ

触って...

あ...
あ...

あ...

あ...
んあ...

私の理性をいとも
簡単に壊してしまう

ちや...

えへへ…
幸せだね？

お嬢様…
全てが愛しいです…

はら…

もっとお嬢様が
ほしい…

まだまだ…

足りない…

んあ…

結局毎日お嬢様の
誘惑に負けてしまう私は
いけないメイドだ…













